

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 5 年 7 月 7 日(2023.7.7)

【公開番号】特開 2022-10500(P2022-10500A)
【公開日】令和 4 年 1 月 17 日(2022.1.17)
【年通号数】公開公報(特許)2022-007
【出願番号】特願 2020-111127(P2020-111127)
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 6 月 29 日(2023.6.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の判定結果を報知する識別情報の可変表示で第 1 特定結果が導出されると大当たり遊技を実行することがあり、前記第 1 特定結果と異なる第 2 特定結果が導出されると前記大当たり遊技を実行することがない遊技制御手段と、

表示手段を含む所定の演出手段を用いて所定の演出を実行可能な演出制御手段と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記大当たり遊技の後に、遊技に関する所定事項について通常の前記非特定状態よりも遊技者に有利な特定状態にすることがあり、当該特定状態になってから前記第 1 特定結果が導出されることなく前記識別情報の可変表示が所定回数実行されることによって当該特定状態から前記非特定状態にすることが可能である遊技機であって、

30

前記遊技制御手段は、前記特定状態になってから前記所定回数目の前記識別情報の可変表示で、前記第 2 特定結果が導出された場合、新たに前記特定状態にし、

前記演出制御手段は、

前記特定状態になってから前記所定回数目の前記識別情報の可変表示で前記第 2 特定結果が導出されて、新たに前記特定状態になる場合、前記第 2 特定結果が導出されて前記特定状態になることを示唆する特定状態示唆演出を実行可能であり、

前記特定状態示唆演出を実行する前に、前記特定状態が終了することを認識可能な第 1 示唆演出を実行してから、当該特定状態が終了しないことを認識可能な第 2 示唆演出を実行することがあることを特徴とする遊技機。

40

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明に係る遊技機は、

所定の判定結果を報知する識別情報の可変表示で第 1 特定結果が導出されると大当たり遊技を実行することがあり、前記第 1 特定結果と異なる第 2 特定結果が導出されると前記

50

大当たり遊技を実行することがない遊技制御手段と、

表示手段を含む所定の演出手段を用いて所定の演出を実行可能な演出制御手段と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記大当たり遊技の後に、遊技に関する所定事項について通常の新特定状態よりも遊技者に有利な特定状態にすることがあり、当該特定状態になってから前記第1特定結果が導出されることなく前記識別情報の可変表示が所定回数実行されることによって当該特定状態から前記新特定状態にすることが可能である遊技機であって、

前記遊技制御手段は、前記特定状態になってから前記所定回数目の前記識別情報の可変表示で、前記第2特定結果が導出された場合、新たに前記特定状態にし、

前記演出制御手段は、

前記特定状態になってから前記所定回数目の前記識別情報の可変表示で前記第2特定結果が導出されて、新たに前記特定状態になる場合、前記第2特定結果が導出されて前記特定状態になることを示唆する特定状態示唆演出を実行可能であり、

前記特定状態示唆演出を実行する前に、前記特定状態が終了することを認識可能な第1示唆演出を実行してから、当該特定状態が終了しないことを認識可能な第2示唆演出を実行することがあることを特徴とする。

10

20

30

40

50